2021 年 10 月 5 日

森林環境教育　北九州市立中原小学校
（4 年生 50 人：校内の樹木観察と森の働きの話）

北九州市戸畑区の閑静な住宅地にある中原小学校で 4 年生 50 人と先生 2 名を対象に森林インストラクターのスタッフ 6 名で校内にある約 50 種の樹木観察と「森の働き」を通じ 3 時間程楽しく遊びながら自然の大切さを伝えました。

まずは、ふくおか森林インストラクター会の紹介、会の使命である「森の案内人」を説明した後、身近なところで見かける野鳥のクイズから始めました。身近な野鳥はスズメ、カラス、ヒバリを取り上げましたが、意外とヒバリを知っている児童は少なく、「ウズラ？」との声もありました。続いて、野鳥の歩き方を問うクイズをしましたが、いつも見てはいるのでしょうが、意外と歩き方までは見ていなかったようです。

お互いの気持ちがほぐれてきましたので、樹木観察の方法や樹木のつくり、例えば、五感を使った観察、針葉樹/常緑樹、広葉樹/落葉樹、単葉/複葉、対生/互生等の見分け方を実物で説明しました。

校内の樹木観察では、マテバシイのドングリを拾い上げては、「これ食べられる？」、ヒイラギの葉に触っては、「痛い！」、クサギの葉をちぎっては、「くさい！」と子どもたちの関心事は強く刺激を受ける樹木のみに集まりました。男の児童が一番喜んだのは、イロハカエデの種（プロペラ）を飛ばすことでした。こんな樹木観察でしたが、知らないことを知って大変喜んでくれたことが私たちにとっては喜びとなりました。

振り返りでは、大声をあげた樹木については大きな声で「マテバシイは美味しく食べられる」と質問に答えていました。その後、樹木クイズでは「イチョウは 2 億年前もあった」、「ケヤキはホウキを逆さにした形」など勉強の成果はあったようです。

「森の話」では、「森の働き」という題目で最近の豪雨を取り上げ、「水と森の働き」、「大雨が降った時の水の流れる様子」、「山と海のつながり」などを説明し、森林を大切にすることを伝えて、本日の森林環境教育を終えました。

（スタッフ：赤松、宮本、高田、常藤、久保田、中村）